

令和1年度 あさがお福祉会業報告書

1. 第1種社会福祉事業

①軽費老人ホームの経営

ケアハウスあさがお 定員50名

②地域密着型介護老人福祉施設の経営(令和2年4月開所)

かごやライフ 定員29名

2. 第2種社会福祉事業

①老人居宅介護等事業の経営

ホームヘルパーステーションあさがお

②認知証対応型老人共同生活援助事業の経営

グループホームあさがお 定員 18 名

③老人デイサービスセンターの経営

つだまちキッチン 定員 25 名(平成 29 年 2 月増改築・増員)

④小規模多機能型居宅介護の経営

小規模多機能型居宅介護あさがお 定員 29 名

⑤障がい児通所支援事業の経営

つだまちキッズ 定員 10 名

つだまちスマイルキッズ 定員 10 名(令和1年10月開所)

⑥幼保連携型認定こども園の設置経営

みつぼしこどもえん 定員 90 名

⑦障がい者共同生活介護の設置経営(平成 29 年 4 月開所)

つだまちリビング 定員 5 名

つだまちリビング2リバーエッジ 定員4名(令和2年4月開所)

⑧短期入所生活介護事業の設置経営(平成 29 年 9 月開所)

かごやリゾート 定員 20 名

⑨放課後児童健全育成事業

あさがお学童保育クラブ 定員 40 名(平成 30 年 4 月開所)

3. 公益事業

①居宅介護支援事業所の経営

ケアネットあさがお

②高齢者向け優良賃貸住宅の経営

シニア向け長屋住宅あさがお邸(定員18名)

③高齢者有料老人ホームの経営

かごやステイ(定員10名)

4. 徳島市委託事業

配食サービス事業の経営

配食サービスセンターあさがお

5. その他の事業

①コミュニティーカフェの経営

茶房うてび庵

②ユニバーサルカフェの経営

つだまちキッチン

事業方針： 令和1年度スローガン

「より強く」

○法人全体事業報告

令和に入り、新たな時代を迎えたが、令和2年2月から急激に感染拡大したコロナウィルスにより、様々な弊害が発生した。当法人においても、新規事業所の人材確保が遅れており、経営に影響している。法人運営全体に関しては、一昨年から経営改革に取り組み、大幅な収支改善を実施。単年度でもみても黒字化に転じており、健全経営が現実となったが、引き続き新規事業所の稼働率を上げより安定経営にシフトしたい。

○新規事業報告

地域密着型介護老人福祉「かごやライフ」は令和2年3月初旬に無事竣工した。ただ、コロナの影響により、中国人技能実習生の来日が困難であり、また、県内でも人の動きが鈍化しており、思うような職員採用が出来ていない。結果、現段階(5月末時点)では、1ユニットを開所したままで、全ユニットを稼働できていない。7月より、職員確保が進み2ユニット目は開所できる見込みである。3ユニット目に関しても、8月開所を目指し職員確保を急ぐ。

障がい者共同生活介護「つだまちグループリビング2リバーエッジ」も同年4月に開所しており、5月末日までには4名定員満床になっている。

○災害対策

自然災害も去ることながら、新型コロナウイルスによる感染症対策に尽力した。実態に即した避難訓練の徹底や、備蓄やBCP(事業継続計画)及びBCM(事業継続マネジメント)の策定までは至っていない。改めて新年度にて策定する。

○職員処遇の見直し

31年度より始まった、働き方改革に応じた職員処遇の見直しを図り、年次有給休暇取得率の向上に徹底した。また、各管理者においてはフレックスタイムの導入。学童活用により、臨時の職員児童受け入れも実施した。一般職員においては各種手当(新入社員のみ)住宅手当の廃止を実施。新年度においては、非正規やパートタイマーに交通費を支給する。

○職員教育及びサービスの品質向上

法人のコンセプトや福祉従事者のエッセンシャルワーカーとしての矜持を持たせるため、新人研修20名(入職1年以内)と、中堅職員20名(入職5年前後)を実施した。

○事業間連携の徹底

みつぼしこども園(保育事業)とつだまちスマイルキッズ(発達障がい児童支援事業)をスタッフと場所を連携させ、園児・保護者・スタッフの三方良しのハイブリッドな事業を構築した。

○AI・ICTの積極的な導入

人材不足やコロナの影響で、リモート化が進む中、労働効率や生産性向上に向け、様々な業務にAI機器やICTを取り入れ業務効率に取り組んだ。